発行：社会福祉法人 中央有鄰学院　　発行日：2019年9月　第30号
ゆうりん　ほだか　ふれあいセンターおおだか　きょうわ　かえで
〒459-8003 名古屋市緑区大高台二丁目1718
TEL 052-621-2441　FAX 052-622-5509
http://www.yuuringakuin.or.jp　Mail：info@yuuringakuin.or.jp

いつもとなりにいるよ

ゆうりんだより

2019.09
Vol.30

「褒めて育てる」

ほだか施設長　梅村　麻美子

相次ぐ凄惨な虐待事件を受け、親によるしつけと称する体罰を禁ずるよう、児童福祉法が改正されることとなりました。社会的養護の各施設でも、安心安全の最後の砦であるという高い意識を持って、子どもの権利擁護の取り組みを進めています。ほだかも、法人の「子どもを肯定的に理解して長所を発見する」という方針のもと、一貫して子どもを「褒めて育てる」を基本姿勢としています。

最近、中部地方の施設職員研修に参加し、この「褒める」という行為の奥深さや難しさを実感する機会がありました。講師の先生は、「子育てハッピーアドバイス」の著者である明橋大二医師で、自己肯定感を育む支援についてのお話でした。先生はまず、日本の子どもの自己肯定感の低さについて言及されました。確かに調査結果を見ると、諸外国の子どもと比べ、日本の子どもは自分の能力に自信がなく、自分をダメな人間だと思う割合が明らかに高いのです。そして、その回復策を先生にお教えいただく中で、「褒める」についてお話がありました。

「褒める」ことは、自己肯定感の回復にとって非常に大切であるというのはもちろんですが、同時に「褒める」言葉は、評価する言葉であるとも指摘されたのです。ほだかの職員は、実によく子どもをほめるのですが、微笑ましく聞く一方で、何か引っかかるものを感じていましたので、先生の指摘にハッとしました。職員のほめ言葉には、「かわいい！」「かっこいい！」「さすがおねえちゃん！」という類の言葉が多いのです。そういった言葉が悪いわけではないのですが、ほめ言葉によっては、高い水準で期待していることが暗に伝わってしまうこともあることに気付いたのです。

例えば、「百点とってえらいね！」とほめられた子どもは、良い点を取らないと認めてもらえないのではと感じるかもしれません。子どもによっては、反対のメッセージと受け取る可能性もあるということです。自己肯定感を育むために大切なのは、「ダメな自分も受け入れてもらえる。自分は自分のままでいいんだ。」という安心感です。「褒める」ことの奥深さを実感した瞬間でした。

教えていただいたほめるコツは、①できないことよりできるところに注目（テストは○の付いているところから見る。）②「できて当たり前」ではなく、「できなくて当たり前」（期待値を下げる）③比較するなら、以前のその子と。そして、やはり、「ありがとう」は魔法の言葉。「ありがとう」は評価する言葉ではなく、相手の存在価値を高める言葉なのです。

ほだかは、これからも子どもをほめて育てていきますが、今後は、子どもの頑張るプロセスを認めてほめる言葉を増やしていきたいと思います。それは、こどもをしっかりと「観て」いなければできないことです。

ゆうりん

暑い暑い夏は…
毎日のようにみんなで水遊び！
新しい芝生が生い茂る中庭には
自然とみんなが集まってきます

遊ぶことも大事だけど
勉強も子どものお仕事！
早く宿題終わらせて
いっぱい遊ぶぞ～

プールそうじのあとに
みんなでハートマーク！

地域のおまつりに参加したよ。
自分の好きなものを選んで食べて
大満足♪

船で沖に出て釣ったカツオを
職員さんがさばいてくれたよ！
みんなでお刺身にして
おいしくいただきました♪

ほだか

今年の夏も、毎年恒例の吉良の海に1泊2日のお泊まりで行きました。
今年の海は、天気も良くて海を怖がる子もいなかったので、2日間思う存分楽しむことが出来ました。
ある子は、「海は入るのが楽しかった。花火も楽しかったよ」と教えてくれました。
ある職員は、夕食がとっても豪華で美味しかったと満足げに話していました。
子どもたちと同じくらい職員も楽しみ、素敵な夏の思い出ができました。

小規模児童養護施設

かえで

今年の夏休み、かえでの子どもたちは夏季保育やトワイライトへ行ったり、部活動に励んだりと、それぞれ忙しく活動していました。

昨年は、猛暑により部活動が中止され、残念がる子もいましたが、今年はそのようなこともなくイキイキとしている姿がありました。汗をたくさん流して帰ってくる子、今年度から新しい部活動に挑戦して「今日はこんなことしたよ」と報告してくれる子もおり、充実した時間を過ごせたようです。

かえで全体としては、昨年と同じく1泊2日で福井県へ行きました。昨年は初めて福井県へ行き、透き通る程に綺麗な海、大迫力の花火に皆で感動を味わいました。今年も行く前から「去年はこんなことしたね」「凄い綺麗だったよね」等と思い出話をし、今年の旅行に期待を膨らませていました。幸い、今年も2日間を通して天候に恵まれ、海水浴も花火大会も満喫することが出来ました。昨年は足がつかない深さを怖がっていた子も、スイミングスクールのおかげで恐怖心が減ったのか、浮き輪を使いながらも一人で悠々と泳ぐ姿が印象的でした。技術的にも精神的にも子どもが成長した姿を見ることができ、私たち職員も嬉しく思います。

また新しく増えた思い出を胸に、更に温かい思い出を増やしていけるよう、日々の生活も大切に過ごしていきたいと改めて思います。

自立援助ホーム

きょうわ

なぜ働くのかと聞かれると、迷わず答えられる人は少ないかもしれません。

会社のため、自分の趣味のため、社会貢献のため、自己実現のため、、、理由は十人十色。

きょうわに入ったら必ず仕事をしなければなりませんが、きょうわに来て初めて仕事をするという子も多くいます。

きょうわで生活する子どもたちにとって、働く理由とはなにか。「学校へ行くお金を稼ぎたいから」と明言する子もいれば、「きょうわにいるために仕方なく」といった感じの子もいてこれまた十人十色。まだまだ遊びたい盛りの16、17歳で、色々な理由があってきょうわに入所した子どもたち。自分の意思というよりは必然性に迫られて仕事をする子が多いのが現状かもしれません。

仕事は楽しいことばかりではありません。そのため、子どもたちは働く喜びを味わう、お金を得るといった経験を経て、子どもが自分なりの働く意味を見つけていくことが必要です。きょうわは、経済的な自立のために働くというよりは、なぜ働くのかを知るために働く場所でもあります。

真面目に仕事に行く彼らですが、大人からするとささいなことで仕事と向き合えず、心が折れてしまう子もいます。まだ高校生の年齢である彼らが、社会の中で壁にぶつかって傷つく様子を聞き、心を痛めることもありますが、職員は代わりに仕事に行くことも、辛さを肩代わりすることもできません。職員にできるのは、何がよくなかったのか、社会人としてどうするべきなのかを一緒に考え、必要であれば迷惑をかけた仕事先に一緒に行き、頭を下げることです。20歳になればほとんどの子はきょうわを出なければなりません。きょうわにいる間にたくさんの失敗と成功を経験して、様々なことを学んでほしいと思います。

また、きょうわの子どもたちが働けるのは就労先の支えのおかげでもあります。子ども達を思って受け入れてくださる職場も多くあり、子どもたちは上司や同僚の方から優しく、時には厳しく指導していただいています。そんな風に一緒に子どもを育てて頂ける職場があってこそ、きょうわは成り立っています。

きょうわの子が就労先の方に迷惑をかけ、謝罪の電話を入れた際に、「素直でいい子なんですよ。もったいない。」と言って頂けたときは、うれしい反面、職員も身が引き締まる思いでした。

今日もたくさんの人たちの温かさと厳しさに支えられて、きょうわの子どもたちは汗を流しています。

仕事の息抜きにスポーツ大会に参加しキャッチャーを任されました。

今年もプール遊びを満喫した夏となりました。毎日、「今日もプール入れるね。」と来てくれる元気な子どもたち。プールの中でも、お母さんに見守られながら一人遊びを楽しむ子や、友達を意識できる年齢になると自分から相手を求め一緒に遊んだりと、安心して遊ぶ時間も長くなってきました。

お母さん同士の関係も良い繋がりができ、母親みんなで子どもを見ているという状況が伝わってきます。

この時期にも、電話での問い合わせや、ふれあいセンターの見学に来て下さる親子も何組かみえました。大きなプールで遊ぶ姿や、広い室内を子ども達が元気に走りまわる姿を見て驚かれています。

ふれあいセンターおおだかでは、初めての方や不安で戸惑っている方も交流のきっかけをお手伝いさせていただきます。

厨房

児童養護施設ゆうりん、乳児院ほだかでは、様々なかたちでその季節に合った食事を提供しています。

本年度5月5日の子どもの日には、乳児院の子どもたちにおやつとしてこいのぼりクレープを提供しました。一つ一つ手作りしており、子どもたちからも人気のおやつです。また、7月には流しそうめんをして涼を感じました。こちらも夏の恒例行事となっており、子どもたちが竹の両側に並んで楽しそうにそうめんやミニトマトなどをすくって食べている姿が印象的でした。

これらに限らず、普段の食事においても旬の食材を取り入れたメニューを提供しています。すると子どもたちから、「夏だし桃が食べたい！」「寒くなってきたからみかんの季節だよね！」など、自然に季節と食材が結びついた言葉が出てきて、食育のひとつになっているなと感じます。

このように、様々な行事を知ることや、食材の一番おいしい時期を知るということは子どもたちが成長していくうえで大切なことの一つです。これからも、子どもたちと一緒に食事を楽しみながら、伝えていけたらいいなと思います。

子どもと地域とのつながり

～この10年をふり返って～

ゆうりん指導員　大谷　雅志

10年以上前の中央有鄰学院を思い起こすと、それは閉鎖された場所であり、子どもたちにとっての社会は『施設』だけでした。。施設内の同級生と遊ぶ、休日には職員に公園などへ連れて行ってもらう等、関わる大人は職員だけで子どもたちの社会は成り立っていました。そのため、友だちと遊ぶ約束をしてくる事や友だちの家に遊びに行くなど、一般家庭では当たり前のことが出来ない児童が多くいました。

しかし、現在は、施設の多くの子どもたちが地域へ出ていくことができています。友だちと一緒に習い事へ行ったり、小学校のＰＴＡ主催のおやじの会ドッジボールチーム、中学校のかみなりおやじの会主催のバスケットボールへの参加など様々なかたちで子どもが地域に出ることができています。

小学校のドッジボールでは、練習後に「今日帰ってから遊ぼう」「明日ゆうりんに来てよ」と友だちを誘って遊んだり、施設職員以外の大人との関わりが増え、それにより自然に挨拶をすることも身についてきました。バスケットボールチームのコーチなども積極的に声をかけ地域の児童と変わらない関わりをしてくれており、そんな地域の皆さんが中央有鄰学院の子どもたちを支えてくれていると感じています。

中学校で行うバスケットボールには、地域に住んでいる様々な児童が集まってきます。そこには、子どもはもちろん、ゆうりんの職員も参加して、地域の子どもの非行防止等、地域支援にも協力させていただいています。バスケの合間には、地域の児童の進路相談をしたり、みんなの学校での話を聞いたりするなどして、交流を深めています。

先日、地域のバスケットボールに数年前から参加し、現在はすでに社会人になった方に「ゆうりんの子がどの子かわからんね！」と言われました。その言葉を聞き、ゆうりんの子どもたちが、地域に溶け込み、生き生きとした表情で一般家庭の子と変わりなく過ごせていることがとても嬉しく感じられました。

子どもが地域に出るということは、社会性やコミュニケーション能力を育み自立していく上で欠かせないことだと感じています。これからも地域交流をするにあたって、さらに地域の方々と連携し、中央有鄰学院が、施設の子だけでなく、地域の子も気軽に立ち寄れる場所として機能し、地域全体で子どもたちを見守っていけるようにしていきたいと思っています。

職員紹介

ゆうりんケアワーカー
丹羽　菜月

●どうして児童養護施設で働こうと思ったのですか？

子どもたちと生活を共にすることで、人生っていくらでも楽しめるということを感じてもらえたらと思うのと、それによって前向きに生活できるようになってくれればいいなという思いがありこの仕事を選びました。

●実際働いて感じていることは？

どこまでやってあげる、どこまで口を出すなど、自分はどうだったかな、自分が親だったらどうするかなと考えたりします。

また、信頼を獲得することが、子どもたちの生活の安心や安全にも繋がってくると思うので、どのように子どもたちの信頼を獲得していけるのだろう、またそんな中でも子どもたちの近くにいる一人の大人として何ができるのだろう、また誰かがではなく私自身が目の前の子どもたちに出来ることは何だろうと常に考えていくことが大切になる仕事だと改めて感じます。

●休みの日は何をしていますか？

お酒が好きなので、友達と飲みに行くことが多いです！あとは、運転することが好きなので、どこかにドライブに出かけて、そのままフラフラ～っと買い物に出かけることもあります。反面、一日家から出ないこともあって、そういう時は、小説を読んだり、録画を見たりして、のんびり過ごしていて、バランスを取りながら過ごしています！

●今後の目標を教えて下さい！

楽しんで子どもたちの生活に入っていくこと、子どもと関わっていくことを何年経っても大切にしていきたいです！自分がまず楽しむことが大事だと思います！

そして、子ども達との信頼関係はまだまだだと思うので、まずは、じっくりと日々の何気ない会話を大切にし、関係を築いていきたいです。何となく関わるのではなく、子どもたちの様子や言動に意識して目を向け、どんな関わりが必要なのかを考え、目的を持って行動できるようになっていきたいと考えています。

ほだか看護師
加藤　智子

○ほだかの職員として働く上で心がけていることは何ですか？

『明るく、楽しく、ほのぼのと！』

ほだかは職員にとっては職場ですが、子どもたちには生活の場です。『生きるって楽しい』『新しいことは面白い』と感じられるようなふれあいを心掛けています。また、子どもたちにとって信頼できる大人でありたいと思っています。

○看護師という職種で子どもたちの養育をしていますが、心がけていることはありますか？

感染予防です。

○子どもとのおもしろエピソード教えてください。

3歳の女の子が往診の後、玩具の聴診器を持って「痛いとこありますか？」と聞いてくれました。「うーん、頭が痛いです！」と答えたら、聴診器を頭に当ててくれました。

○ 印象に残っているほだかでの行事はありますか？

担当児の誕生会とお別れ会です。3歳の誕生月に退所となり、誕生会とお別れ会を一緒にしました。視力が弱い児で音楽がとても好きな児でしたので、職員のギターとピアノでお別れコンサートを開催しました。二十分も椅子にきちんと座って集中して聞いていて、拍手をしたりみんなと「タッチ」でお別れをしたりする様子を見て、子どもの成長を目の当たりにし、感動しました。ほだか職員の愛情の賜物と感じました。

○ほだかのここが好き！を教えてください。

子どもと一緒に色んなことが出来ることと、お世話をしている子どもたちから私自身がエネルギーを貰えるところです。

○最後に一言

気力・体力が続く限りは頑張ります。お世話をかけますが、よろしくお願い致します。

平成 30 年度 社会福祉法人中央有鄰学院　決算会計報告

勘定科目			法人本部	ゆうりん	ほだか	きょうわ	ヘルパーS ゆうりん	かえで	収益事業	合計
事業活動による収支	収入	介護保険事業収入	0	0	0	0	43,585,334	0	0	43,585,334
		児童福祉事業収入	0	251,388,522	197,254,103	35,138,762	0	27,684,386	0	511,465,773
		経常経費寄付金収入	2,700,303	1,417,951	541,650	222,000	0	130,000	0	5,011,904
		受取利息配当金収入	697	271	1,509	28	152	20	26	2,703
		その他の収入	103,000	5,313,828	14,876,924	3,535,300	0	309,659	300	24,139,011
		生活事業収入	0	0	0	0	0	0	21,600,000	21,600,000
		事業活動収入計	2,804,000	258,120,572	212,674,186	38,896,090	43,585,486	28,124,065	21,600,326	605,804,725
	支出	人件費支出	599,000	206,522,588	169,835,679	30,149,265	25,420,116	18,157,549	18,358,622	469,042,819
		事業費支出	1,821,232	47,573,822	14,044,517	2,867,171	2,559	4,639,344	0	70,948,645
		事務費支出	2,543,085	13,162,720	14,302,293	6,148,386	1,747,653	3,765,125	592,929	42,262,191
		支払利息支出	201,883	934,408	401,229	0	0	0	0	1,537,520
		その他の支出	0	0	0	0	0	0	0	0
		事業活動支出計	5,165,200	268,193,538	198,583,718	39,164,822	27,170,328	26,562,018	18,951,551	583,791,175
	事業活動資金収支差額		▲2,361,200	▲10,072,966	14,090,468	▲268,732	16,415,158	1,562,047	2,648,775	22,013,550
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	0	7,448,220	2,186,460	0	0	0	0	9,634,680
		施設整備等寄付金収入	0	0	0	0	0	0	0	0
		設備資金借入金収入	0	0	0	0	0	0	0	0
		固定資産売却収入	0	0	0	0	0	0	0	0
		施設設備等収入計	0	7,448,220	2,186,460	0	0	0	0	9,634,680
	支出	設備資金借入金元金償還支出	1,092,000	8,376,000	2,332,000	0	0	0	0	11,800,000
		固定資産取得支出	3,986,722	0	3,309,935	0	0	0	0	7,296,657
		固定資産除却・廃棄支出	0	0	0	0	0	0	0	0
		ファイナンスリース債務の返済支出	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他の施設整備等による支出	0	0	0	0	0	0	0	0
		施設整備等支出計	5,078,722	8,376,000	5,641,935	0	0	0	0	19,096,657
	施設整備等資金収支差額		▲5,078,722	▲927,780	▲3,455,475	0	0	0	0	▲9,461,977
その他の活動による収支	収入	長期運営資金借入金元金償還寄付金収入	0	0	0	0	0	0	0	0
		積立資産取崩収入	0	97,650	4,500,000	65,100	0	0	0	4,662,750
		拠点区分間繰入金収入	12,000,000	0	0	0	0	0	0	12,000,000
		その他の活動による収入	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他の活動収入計	12,000,000	97,650	4,500,000	65,100	0	0	0	16,662,750
	支出	長期運営資金借入金元金償還支出	0	0	0	0	0	0	0	0
		積立資産支出	0	0	14,500,000	0	0	0	0	14,500,000
		拠点区分間繰入金支出	0	0	0	0	12,000,000	0	0	12,000,000
		その他の活動による支出	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他の活動支出計	0	0	14,500,000	0	12,000,000	0	0	26,500,000
	その他の活動資金収支差額		12,000,000	97,650	▲10,000,000	65,100	▲12,000,000	0	0	▲9,837,250
当期資金収支差額合計			4,560,078	▲10,903,096	634,993	▲203,632	4,415,158	1,562,047	2,648,775	2,714,323
前期末支払資金残高			66,571,069	14,868,207	38,272,007	3,344,058	8,372,924	185,022	0	131,613,287
当期末支払資金残高			71,131,147	3,965,111	38,907,000	3,140,426	12,788,082	1,747,069	2,648,775	134,327,610

※決算報告等の詳細は、ホームページからご確認いただけます。

平成31年4月1日から令和元年8月31日までに、寄贈・招待・ボランティア活動にご協力いただきました方々のご紹介をさせていただきます。紙面の都合上内容は省略させていただきます。（順不同・敬称略）記載されていない方がございましたらお許しください。

【個人】

成田幸剛　深谷まみ　谷本美枝子
稲川有紀　鶴田恵美子　岩瀬好美
下村康範　山口ミツノ　鶴見利雄
丸山圭子　加古みゆき　田中尚己
矢野芙弥代　立花弘美　阪野文明
濵砂由美　加藤幸男　安井洋子
渡邊実香　瀬川卓也　廣田壮之輔
小椋寿男　早川富雄　志賀敦夫
金田和久　竹内珠江　三浦和人
柴橋佳幸　谷藤沙希　小笠原祥代
畔柳まどか　寺尾法子　浅井千穂
堀尾まゆ　永谷康信　石井祐次
安江義昭　森政樹　佐久間信男
佐伯誠　谷川修　小尾真智子
福嶋俊郎　矢守信昭　飯田延考
藤村純子　西村登美子　深谷侑加
久野すみこ　福岡典子　松山信
野田禮次　テスタ

【団体】

マックスバリュ有松駅前店
㈱Ｌ．Ａ．Ｐ東海（こころテラス東海）
㈱豊明損保センター　東洋軒
タリーズコーヒージャパン㈱マーケティング本部
中部善意銀行　ＫＥＩＺ大高店
㈱名古屋食糧　親切会中部支部
名南ロータリークラブ　愛知ＪＡ
東海アイスクリーム協会　三誠㈱
赤城乳業㈱　中部トーハン会
グランドオータ888鳴海店
㈲尾州商会　㈱光貴組
コカ・コーラボトラーズジャパン㈱中部日本営業本部愛知チェーンストア営業部　タキヒョー㈱
三菱地所㈱名古屋支店　鮨海
セカンドハーベスト名古屋
㈲沖玉エンジニアリング　うぶかチュチュアンナ1％クラブ
ボラみみ事務局　りんの会
ヒルズウォーク徳重ガーデンズ店
JXTGホールディングス㈱
ポッカサッポロフード&ビバレッジ㈱　㈱トヨタシステムズ
日本ゼネラルフード　SHRIMP
㈱スキンラボ　制服のイトウ
ELEZO　テストキッチン
NGFホールディングス㈱
コストコホールセールジャパン㈱
名古屋トヨペット㈱　鳴海教会
㈱オーアンドケー　丸美産業㈱
名古屋グランパスエイト事務所
名古屋ワイズメンズクラブ
マックスバリュ中部労働組合
やまの辺　フラワーキャンドル
中央ライフサポートセンター

★福祉サービスの事業者は、利用者からの苦情の適切な解決に努めることになっています。中央有鄰学院では、左記の通り苦情解決責任者と受付担当者を設けております。

・ゆうりん
TEL 052（621）2441
苦情解決責任者　小尾
受付担当者　三宅

・ほだか
TEL 052（693）5628
苦情解決責任者　梅村
受付担当者　山本

・きょうわ
TEL 052（746）4555
苦情解決責任者　竹内
受付担当者　北根

・かえで
TEL 052（746）5190
苦情解決責任者　小尾
受付担当者　恒川

〈第三者委員〉
福祉サービス苦情相談センター
TEL 052（910）7976
FAX 052（910）7977

COLUMN

子育てというのは、これ以上ない生きがいであるはずですが、現代の親は他に生きがいや楽しみがあり、それを優先しようとして子育てを難しくしているところがあると思います。

さらに親の願いとして、思いやりのある子に育って欲しいとか、ちゃんと自立した子になってほしいなど、それを当たり前のように優先して叶えようとしています。

しかし、子どもの願いを聞かずに、親の願いが叶うでしょうか。

子どもは、抱っこして欲しい、いっぱい甘えたい、一緒に遊んでほしい、自分だけを見て欲しいと生まれながらにして必死で自分の願いを訴えています。その子どもの願いに精一杯応えていくことで、はじめて親の願いが子どもに聞いてもらえるんだと思っています。

子どもの願いをきかない限り、大人の願いは叶わない。これは、子どもの親だけでなく施設職員をはじめ、子どもの育ちに関わる全ての大人に通じることだと思っています。